

平成 27 年度第 5 回市原市市民活動・協働推進委員会議事録

- 1 日時 平成 28 年 3 月 11 日（金）午前 10 時から正午まで
- 2 場所 市原市立国分寺公民館 2 階会議室 2
- 3 出席者
 - (1) 委員
関谷会長、鈴木副会長、小澤委員、谷口委員、露崎委員
 - (2) 事務局
 - ア 市民活動支援課 田邊課長、田邊主幹
 - イ NPO・ボランティア支援室 若菜室長、谷川主任、田村主事
- 4 議事
 - (1) 平成 27 年度市原市市民活動支援補助事業に係る成果報告
 - ア 特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会
 - イ 傾聴の友「やすらぎ」
 - ウ Cocoro salon Aun
 - エ 高根台フラワーガーデン
 - (2) 委員講評
- 5 会議経過
以下のとおり

(司会)

定刻となりましたので、ただ今より、平成 27 年度第 5 回市原市市民活動・協働推進委員会を開催いたします。

はじめに、関谷会長より御挨拶をお願いいたします。

(会長)

第 5 回の市民活動・協働推進委員会ということで、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は、平成 27 年度の市民活動支援補助事業に関する成果報告となっております。委員の皆さまから、コメント、アドバイス等をいただくことが中心となっておりますので、こ

の後、各団体から報告がありますが、それぞれの立場から、講評をお願いいたします。

(司会)

ありがとうございます。これより議事をお願いします。市原市附属機関設置条例第 5 条第 1 項の規定により、会長が会議の議長となることとされておりますので、以降の進行を会長をお願いいたします。

(会長)

それでは始めたいと思います。まず議事に先立ち、会議の成立要件について確認します。事務局から報告をお願いいたします。

(事務局)

本会議の成立要件につきましては、市原市附属機関設置条例第 5 条第 2 項の規定によりまして、委員の皆様の過半数の御出席が必要となります。本日、委員総数 6 名のうち、5 名の出席をいただいておりますので、過半数を超えておりますので、本会議が成立していることを御報告いたします。

(会長)

ただいま、事務局から出席委員数の報告がありました。その結果、市原市附属機関設置条例第 5 条第 2 項により、本会議が成立していることを確認します。

なお、議事録につきましては、会長と副会長の 2 名で議事録の署名人を務めたいと思いますが、いかがでしょうか。

－異議なし－

(会長)

異議なし、ということで、私と副会長で議事録を確認させていただきます。

また、平成 27 年度市原市市民活動支援補助事業に係る評価の答申につきましては、本日の成果報告について、委員の皆さまから頂戴した意見を後日取りまとめて、答申として市に提出することになります。本日、いろいろ御意見を頂戴する予定ですが、まとめについては、会長と事務局に一任していただければと思いますが、よろしいでしょうか。

－異議なし－

(会長)

それでは、議事に入りますので、報告者を入室させてください。

また、第2回会議におきまして、「審議は非公開とし、それ以外は公開とする」と議決しましたので、傍聴人がいれば、併せて入室させてください。

(報告者及び傍聴人入室)

(会長)

本日は、会議を公開といたしますので、傍聴人の方は、お手元の「傍聴要領」を守り、係員の指示に従ってください。

それでは、議事に入ります。

まず、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

議事の説明に先立ちまして、「市原市市民活動・協働推進委員会」の委員を御紹介させていただきます。

まず、同委員会の会長であります、千葉大学法政経学部准教授であり、ちばのWA地域づくり基金理事長 関谷昇委員です。

続きまして、副会長であります、市原市ボランティア連絡協議会会長 鈴木幹夫委員です。

続きまして、いちほら歯っぴい8020応援隊代表 小澤充子委員です。

続きまして、NPO法人いちほら子育て応援団理事兼事務局長 谷口真紀委員です。

最後に、社会福祉法人市原市社会福祉協議会次長 露崎芳隆委員です。

それでは、本日の議事であります、(1)平成27年度市原市市民活動支援補助事業に係る成果報告及び、(2)委員講評につきまして、御説明いたします。

平成27年度市原市市民活動支援補助事業におきましては、4団体から事業の提案があり、審査の結果、4団体全ての提案を採択といたしました。

各団体におかれましては、平成27年7月から平成28年2月までの間に実施された提案事業につきまして、御報告をいただきたいと思っております。

また、委員の皆様におかれましては、各団体の報告終了後に、専門の視点等から、講評をお願いします。

続きまして、手順について申し上げます。

報告に関する持ち時間は、発表10分、講評10分の計20分といたします。5分が経過しますと、こちらの案内を、10分が経過しましたら、こちらの案内を出しますので、発表時間の目安にしてください。なお、発表の途中でありましても、10分が経過しましたら、終了とさせていただきますので、御了承ください。

また、内部資料としまして、会議の録音並びに会議中の写真を何枚か撮影したいと存じます。予め御了承をお願いいたします。

(会長)

本日は、成果報告ということで、採択された4団体の方々が、昨年7月から今年2月までの8ヶ月間に、どのような活動をされて、どのような成果をあげられたのか報告をいただきたいと思います。

報告される方々におかれましては、これまで、どのような思いで、どのような活動をされたのか、どのような課題解決につながる成果があったのか、今後に向けてどのような展望を持っているのか、多少の強弱はあるかと思いますが、各団体なりに報告をいただければと思います。

また、各団体の報告の後に、委員から講評という形で、質問や今後に向けたアドバイスをお話させていただきます。

それでは、「特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会」様、成果報告をお願いいたします。

－「特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会」成果報告－

(会長)

ありがとうございました。

それでは、委員から講評をお願いします。

(委員)

書類を拝見したときは、どのような活動をされるのかわからず、危惧していましたが、本日の報告を聞いて、いろいろなことに目を向け、一つ一つ成長され、高齢者や若者を巻き込み、今後に向けて活動されていることがわかりました。

今後、グローバルに発展していくこと、前に向かっていくことが大事であると思いますので、これからも頑張ってくださいと思います。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

なかなか、これをやる、ということが上手く説明できず、どちらかと言えば、市民の方がやりたいことを支援するため、当初の説明が非常にわかりづらかったと認識しています。2年間補助していただいたことで、見えてくるものがたくさんありましたし、皆さんが楽しく、元気になるような活動につなげることができたと思います。

(委員)

とても楽しく聞かせていただきました。素晴らしい活動を幅広くされておられ、すごいなと感じています。

今回の報告の中で、今後につながるのではないかと思ったのが、「市原プロダクション」です。

しかしながら、事業の幅が広すぎて、市活会という団体が、どのような存在なのか、形を持って見えにくい。このことは、活動をする上で、この団体に何を願えばよいかわからず、広がりようがないと思います。もっと広げていくために、明確に、このNPO法人はこういうことをする団体だ、というような言葉があるとよいと思います。そうすることで、音楽活動や子ども達の着付けなどの強みを、「市原プロダクション」として、いろいろなイベントやお祭りをもっと盛り上げていくために、有効活用できるのではないかと思います。例えば、どこかの幼稚園がイベントをやりたいと言ったときに、市活会で着付けの人を呼んでもらえる、など、そうしたことがわかると、もっとよいのではないかなと思いました。

その中で疑問に思ったことが二つあります。一つ目は、今回の報告の中に、開催したイベント等の明確な日付がなくて、少し不明瞭でした。今回の補助金で、7月から2月の期間中に行ったことは、何でしょうか。例えば、スマホのゲームアプリというのは、今回の予算に入っていないので、今回の予算を使って、この期間の中で行ったことは何か説明していただきたい。

もう一つは、プラットフォームということを仰っていましたが、そのプラットフォームというものが、物理的に何かわからなかったので、説明していただきたい。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

具体的に行った事業は、補助金の報告書には記載させていただきましたが、今回の報告では明示いたしませんでした、明示すればよかったと反省いたしました。

基本的に、補助金は、イベントや高齢者施設に訪問する際のリハーサルの会場代や消耗品の購入等に使用させていただきました。これも今回の報告に盛り込むべきでした。

また、プラットフォームに関してですが、私たちが2年間の活動を通して感じたことが、市原市はイベントがたくさん行われていますが、イベント業者に丸投げしているケースが多く、心から楽しみにしているイベントがどんどん減っているのではないかという話を聞いたことがあります。「五井大市」などは、手作りで、話し合いながら行っていますが、そのような、市民を中心としたイベントや活動を支えるようなものを、プラットフォームとしています。従いまして、業者のお手伝いも必要ですが、このプラットフォームを中心に、関係している市民の方々、市役所の方々、商工会議所の方々などと、情報を集約した形でやっていきたいと考えております。将来的には、登録制にして、いろいろなものに派遣していくようにしたいと考えております。

(委員)

私は、プラットフォームは目に見えた、物理的なものをイメージしていたので、例えば、

事務所があって、情報が紙であるとか、フェイスブック上に連絡の窓口をつくるなど、そうしたものをイメージしていましたが、まだそういう段階ではないということでしょうか。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

段階と言いますか、おそらくそうはならないと思います。オフィスを持たず、インターネット上で全てを動かす、というイメージを持っております。オフィスを借りればお金もかかりますので。

(委員)

そうすると、プラットフォームというのは、インターネット上で、どのようなサイトになるのでしょうか。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

ホームページになります。

(委員)

そのホームページはこれからでしょうか。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

これからになります。資金がありませんので、民間助成金などを利用して資金を獲得して、インフラを整備していきたいと考えています。

ただし、考え方としては、固定的なオフィスを持つというより、インターネットメディアを利用して行っていきたいと考えています。インターネットが使えない方へは、ダイレクトメールを出すなど、なるべく経費を抑えてやっていきたいと考えています。

(委員)

ゆくゆくはホームページをつくり、情報を集約して、プラットフォームとしてやっていくということですね。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

そのとおりです。あとは、インターネットを使わないお年寄りの方々に、どのように情報を発信していくのかを考えなければいけないと感じています。

(委員)

非常にグローバルで斬新な活動であると、審査の段階から感じておりました。

元気になる活動ということで、特に高齢者の方の社会参加が受身ではなく、自発的になされ、併せて、裏方のお手伝いもしていくとのことですが、現在、介護保険法が改正されて、高齢者の社会参加が非常に注目されています。この点で、高齢者の方の参加について、具体的に説明願えますか。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

それは、募集の仕方ということでしょうか。

(委員)

活動の担い手としての参加、受身としての参加、どちらもあると思いますが、どのように参加されているか、説明願えますか。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

例えば、誰かが舞台上で演奏などをして、それを見るのが受身となるかと思います。

一方で、例えば、その舞台に出演する方の着付けをしてあげるとは参加していると考えています。

介護保険法の改正についてはわかりませんが、今は、いろいろな方が参加したいということで、ボランティアに集まってきてくれています。

(委員)

どのくらい集まってきているのでしょうか。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

小学生が活動する際には、50名程度集まっていただけました。延べ人数で言いますと、100人はいない、といったところです。もちろん若い方々は、もっとたくさん参加していただいております。

(委員)

参加していただくということが、重要なことだと思います。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

はい、どのように引き出していくかということが重要であると感じています。

声かけをしなければ、積極的に参加していただけませんので、これからも声かけをしていきたいと思っています。

(委員)

孤立を防ぐためには、いい活動ですよ。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

継続的に声かけをしないと、継続して来ていただけなくなりますので、常に声かけをしております。

(委員)

高齢者への声かけというのは、どのようにされているのでしょうか。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

施設に入所されている方は、外の活動に出てくることは難しいので、在宅の高齢者の方々へ、今は、ロコミを中心に行っております。将来的には、募集をかけていきたいと考えておりますが、まだ体制が整っておりません。

(委員)

今は、関係者によるロコミということですね。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

そのとおりです。

(委員)

その結果、50人くらいということですね。なかなか大変ではないですか。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

いえ、むしろ積極的に、前向きに取り組んでいます。

(委員)

報告の中で、「五井大市」などが出てきましたが、主催者は別だと思っておりましたが、共催しているのですか。

(特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会)

「五井大市」は、ステージ演出のみを商工会議所から委託されて行っております。また、市がいちほらTMOに委託した「恋フェスタ」に、当会も実行委員の一人として携わっております。このほか、単に参加しているものとしては、「上総いちほら国府祭り」がありません。

(会長)

これまでの活動において、提案から成果報告まで含め、ポイントは、地域で行われている活動に入りこみ、つなぎ役を徹底させていこうという姿勢が一貫されていることです。つなげていくためのスキルも持っているので、今後どのように発展させられるかが、魅力であり、課題でもあると思います。

今は口コミで、ということでしたが、つなぎ役は、なかなか形として見せづらいと思います。悩ましいところであり、その歯がゆさもよくわかりますが、そのつなぐという部分を、今後、形として内外に発信できるかどうかを考えていくことが大事です。

市活会と連携すると、こうしたつながりができる、あるいは、こうしたつながりを作りたいたいから、一緒にやりたい、という動きがでてくると、今まで以上に力が発揮できると思います。それが浸透していけばいくほど、信頼感も高まり、いろいろな活動を結び付けていくということにつながると思いますので、その点を改めて強調させていただきたいと思えます。

また、プラットフォームについても、意味合いはよくわかりますが、先ほども委員から質問があったように、プラットフォームの形というものはどういうものなのかわかりづらい。具体的な場所ではない、施設でもない、更には、独特なネットワークの中で、ITを使っていく。そうすると、地域の具体的な人間関係とITの空間が生じることになりますので、そこをどうつなぐのか。そうした部分を上手く見せられると、市活会の魅力がもっと可視化されていくと思います。そこがまだ十分につながっていないので、プラットフォームの形が見えづらいのだと思います。そこが見えてくると、狙いとされていることが、地域に浸透していくようになると思います。

最後に、こうした事業を行っていく上では、対象を漠然と高齢者とするのではなく、どのようなことを求めている高齢者に働きかけていくか、対象を絞るとよいと思います。このイベントは、こうした高齢者の方に参加してもらおう、関わってもらおう、と絞った上で、情報発信する、働きかける、あるいは関係団体等を巻き込んでいくと、戦略の立て方が出てくると思いますので、対象ということも念頭に置いて活動してください。

以上で、「特定非営利活動法人千葉市原を活性化する会」様の報告を終わりにしたいと思います。

(会長)

続きまして、「傾聴の友「やすらぎ」」様、成果報告をお願いいたします。

－「傾聴の友「やすらぎ」」成果報告－

(会長)

それでは、委員の講評をお願いします。

(委員)

素晴らしい報告をありがとうございました。一番素晴らしいと感じたのは、リピーターを増やしたということで、会員が何度も活動したくなるような活動を、これだけ継続されているのは、本当にすごいなと感じました。

是非、これからも続けていただければと思いますが、心配な点として、これだけ一生懸命活動されていると、活動者がボランティアの枠を超えて疲弊してしまうのではないかと感じました。市内の介護施設の数からすると、全然足りていないと思いますが、毎月、これだけの訪問をされていて、大変ではないかと思えます。その負担感を減らすために、施設からの資金援助に動き出していると思いますが、次年度の計画はどのようになっていますか。

(傾聴の友「やすらぎ」)

御指摘いただきましたように、私たちの活動は、できる人が、できる時に、という Mottoで行っておりまして、大体 4 人くらいで各施設を訪問しますが、急用が出来てしまった場合には、施設ごとに責任者を配置しておりますので、責任者からの連絡で、補充対応しています。行ける時に行くということが、長続きしている理由かなと考えております。また、訪問した高齢者の方々から、暖かい言葉をいただくことが励みとなり、継続している要因とも思っています。

平成 28 年度におきましても、同様に活動していきたいと考えております。私たちの活動により、入居者が笑顔になり、介護しやすくなったという話も施設職員からいただいており、訪問回数を増やしてくれないかと相談されていますが、検討した結果、現状の人数では、増やすことは難しいという結論に至りました。会員が増えた際には、また検討したいと考えております。

今の活動の中で、内容をより充実させ、スタッフが喜んで活動できるようにしていきたいと思っております。

(委員)

3 年間、すごく頑張ってらっしゃると感じています。代表者の方は、いつも笑顔で、会員の方々も活動しやすいのではないかと思います。また、これだけの会員数をまとめ、活動していくことは、並大抵の努力ではないと思います。会員同士の会話、意思疎通を大事に、無理をされず、是非続けていただければと思います。

(委員)

傾聴の団体は、市内に複数ありますが、他団体との情報交換や一緒に活動することは、

あるのでしょうか。

(傾聴の友「やすらぎ」)

情報交換はしておりますが、一緒に活動はしていません。市内には、傾聴の団体がほかに 2 団体ありますが、そのうちの一団体は、個人宅へ訪問しておりますので、一緒に活動していません。私どもも、過去に個人宅への訪問を行ったことがありますが、なかなか上手くいきませんでした。訪問した相手から、男性はいやだ、とか、もっと若い女性がいい、などの要望があり、私たちの活動とは合わない判断し、施設への訪問を行うことにしました。

また、もう一つの団体については、昨年、一緒に施設訪問し、現在、私どもと同様に月に 1 回、施設訪問していると聞いております。

他団体からは、会員の退会に関する相談などを受けておりますが、先ほど御指摘にもありましたが、続けることが一番大変なことであり、続けるためには、会員の都合等を考慮して活動しないと、続かないと考えています。

(委員)

在宅への訪問活動が難しいということですが、高齢化により、認知症も増え、引きこもり高齢者といった方も増えてくると思います。そうした意味では、難しいとは思いますが、今後、在宅の方への支援も視野に入れていただきたいと思います。

それから、平成 28 年度の補助金についても応募されており、その審査過程で、施設からの寄付について話が出ましたが、その辺はいかがでしょうか。

(傾聴の友「やすらぎ」)

私どもも、補助はいつまでもあるものではないと思っており、市の担当の方からも自立に向けたアドバイスを頂いているところです。

平成 30 年度から完全な自立に向けて、28 年度と 29 年度で寄付について、施設と協議していく予定で、現在、既に施設側へ寄付の打診をしております。

また、市以外の助成金制度の募集要項なども入手し、応募に向けた準備をしております。中には、2 年以上の実績が応募要件となっているものもありましたが、活動して 3 年になりましたので、これまでの実績をもとに、資金的な自立に向けて動き出してまいります。

(委員)

市内の団体と情報交換をしながら、活動を継続していただきたいと思います。

また、現在と将来を見極めながら、計画的に活動をされており、大変素晴らしいと感じています。

質問ですが、会で行われている研修について、もう少し詳しく説明していただけますか。

(傾聴の友「やすらぎ」)

これまで、スピリチュアルケアや認知症に関する対応方法等が、活動をする上で必要な知識と考え、勉強会を開催してきました。平成 27 年度は、東京基督教大学の教授を講師に、スピリチュアルケアに関する勉強会を開催いたしました。

また、年に 2 回程度、認知症について勉強しており、少しずつスキルアップにも力をいれております。

(会長)

この傾聴という取組は、市民活動の大事な柱の一つを実践されていると感じています。市民活動は、当事者にどう接近していけるかどうか、ということが非常に重要であり、まさに施設に入所されている当事者の方一人一人にどう接近していけるかどうかということです。これは、ほかの活動にも応用できることで、一人暮らしをされている方にどう接近していくか、子育てをされている方にどう接近していくか、ということです。当事者に接近していくことが、非常に重要であり、それに向けたスキルアップももちろん必要ですが、対話を重ねていくという非常に大事な活動をされていることを、本日の成果報告で改めて実感いたしました。

それと同時に、今後の課題として、一つは、接近していけばいくほど、当事者の目線から考えると、こうした傾聴の活動の中で、ほかのことも一緒にできれば、というニーズが出てくると思います。また、訪問回数についても、来てくれて嬉しいと感じたら、もっとたくさん来てほしい、と言われると思いますので、その辺をどのように対応していくか考える必要があります。今のスタッフや体制との兼ね合いになると思いますが、当事者目線から見ると、そうしたことを一層求められていくこととなります。だからこそ、傾聴の範囲をどのように考えていくのかということが、中長期的な方向性を見通したときに、問われてくると思います。

その際、もう一つのポイントが、どのようなスキルを磨いていけるかということです。認知症に関して言えば、既に発症した方もいらっしゃるし、予防という観点もあるでしょう。あるいは、今、私が共同研究をしているエンド・オブ・ライフケアというものがあります。これは、ホスピスとは、余命宣告された際の残された時間を、より良く生きられるために、そのケアをすること、ターミナルケアなどとこれまで言われてきました。しかし、現在、ケアの最先端では、余命を宣告されたわけではないが、人はいずれ死ぬので、どのように自分なりの最期の迎え方ができるかについて、今から考え、準備していくことが広がってくると予想されています。そうすると、この傾聴もとても大事な活動になってくるのではないかと感じています。当事者の方々は、まずは楽しく生活したいということから、最期の迎え方等も含めた話をしたい。しかし、そのような話を家族とできないという方も多く、客観的な立場で話を聞いてくれる方のニーズは非常に高まっていますので、かなり

長い射程にはなりますが、とても意義のある取組だと思いますので、どのようなスキルを自分たちなりに磨いていけるか、是非検討されながら、続けていただきたいと思います。

以上で、「傾聴の友「やすらぎ」」様の報告を終わりにしたいと思います。

(会長)

続きまして、「Cocoro salon Aun」様、成果報告をお願いいたします。

－「Cocoro salon Aun」成果報告－

(会長)

それでは、委員の講評をお願いします。

(委員)

発達障害という言葉は聞いていましたが、ここまで現実的な話は初めて聞きました。今後、大切なテーマだと思います。また、いじめによる自殺など、よく耳にしますので、心に響く講演会だったのかなという印象を持ちました。

(委員)

市外からも注目を集めた講演会だったのではないかと思います。そうした意味では、この1回で終わってしまうことは、もったいないと思います。

今後の展望も素晴らしいと思いますが、そこで気になる点が、資金面です。質問ですが、こうした活動は、全国に、ほかに実例はあるのでしょうか。また、今後の資金面については、目処があるのでしょうか。

(Cocoro salon Aun)

資金面に関しましては、発達障害の親子サポートである寺子屋を計画しており、4月か5月にはスタートさせる予定です。事業資金は自腹で開始することになりますが、計画上は、売上げから回収できる計算です。

発達障害のある方の学習塾は、千葉市より北部にはありますが、南部にはなかなかありません。さらに、週1回の学習支援だけで月に約2万円かかり、それにソーシャルスキルに関する内容を加えると、追加で1万5千円程度かかってしまいます。さらに、入塾料も2万円から3万5千円くらいかかるので、保護者の負担は大きいのが現状です。

私どもは、発達障害の当事者でもあり、思いも強いので、事業として成り立つ最低限の料金設定にしたいと思っています。具体的には、全てのカリキュラムを含めて2万5千円の月謝にして、今の会員で対応したいと思っており、計画上は、自立できるものになって

います。

(委員)

公共性が高い事業であると思います。障害者手帳がないと、公共の支援が受けづらいと聞いたことがあります。そうした狭間にいる子ども達には必要だと思いますし、こうした支援を行うことで、将来の市原市にとって大きなプラスになると思います。私は、就職支援の仕事をしています。子どもの頃に、こうした障がいを親が認識し、支援を行った子と、そうでない子では、将来、天と地ほどの差が生まれてしまうと感じています。将来、大学教授などになって活躍する方もいれば、生活に窮する方もいらっしゃいます。幼少期に適切な支援を行ったかどうかで、社会で活躍できるようになるか決まることもあると思いますので、そうした意味では、最初は全て自腹となるかもしれませんが、公共にも働きかけて、一緒にやっていくなど、是非考えてほしいと思います。

(委員)

平成 28 年度の補助金に申し込まなかった理由は何かありますか。

(Cocoro salon Aun)

ちょうど平成 28 年度事業の募集時期が、平成 27 年度事業の講演会準備と重なっていたため、申請しませんでした。

重なっていなければ申請していたかもしれませんが、結果的に、講演会後に時間的余裕が生まれたことで、大学教授の方などとお話する時間が生まれ、今後の事業計画につながった面もありますので、結果的にはよかったのではないかと考えております。

(委員)

親への支援というのは、非常に重要なことだと思っております。私も、かつて障がい者支援に携わったことがあり、保護者への関わりというのは、とても大事な部分でした。

先ほどの講評にもありましたが、活動内容が非常に公的なものだと感じますが、今回の講演会を開催するに当たり、行政と何らかの関わりがありましたか。

(Cocoro salon Aun)

講演会に関して、市教育委員会の後援をいただき、リーフレットを市内の小中学校へ配布をすることができました。

(委員)

今後の活動に当たっても、行政と関わりをもちながら進められるとよいのではないかと思います。

(会長)

障害者手帳を持っているわけではないから、理解されていない現状があるのではないかと思います。制度の狭間の中で、もれ落ちてしまっているが、当事者や家族にしてみれば、何とかしなければいけない問題であり、こうした問題に光を当てるということは、自身が当事者ということを含めても、大事な取組をされていると思います。

その中で、いくつかポイントがあると思いますが、一つは、今回の講演会のように、この問題がどのような問題なのか、幅広く市民に伝えていくということです。どうしても、ある種の固定観念や誤解が重なり、結果的にいじめや排除などにつながってしまったり、支援が必要な部分があるにも関わらず、大丈夫だと平気で言う人たちがまだまだいるのではないかと思いますので、こうした周知を行っていくことは、本当に大事なことで、1回や2回では決して足りないと思いますので、今後、どのように継続的に伝えていくか、検討してみてください。

また、今回のようなシェアの会やサポートための寺子屋といった、当事者の方々や、サポートされる専門家も含めて、個別具体的に、自分の悩みを伝えられる場や、アドバイスや支援が受けられる場が当然必要になりますので、そこに力を入れていく。託児施設もその一環だと思いますが、そうした場をどのように作っていくかが大きな課題であると思います。そうしたことを考える際に、会としていくつかの方向性があるのではないかと思います。

報告を聞くと、市原市内にそうしたネットワークのようなものを作り、同じような境遇にある方々が相談できるような入口を作ったり、アドバイスをもらえるような場をつくったりと、そうしたことを念頭に置かれていると思いますが、それ以外にも別の方法もあるのではないのでしょうか。私の知っている例では、発達障害の支援の母体を学校に置き、学校の中で、関係者が一同に介する定期的な会議を開催して、現状の確認等を行っています。そうした場で、どこが何を出来るのか、少しずつ模索しながら、できることを具体的に形にしていくとよいのではないのでしょうか。ですから、市原市全体として見ていく視点も大事ですが、学校のような現場の中で、そうした場を作っていくために、いろいろな方法を組み合わせていくことが現実的だと思います。おそらく行政も発達障害に関して認識が弱い部分があるのではないかと思いますので、どのように協働ができるのか、まだ見えてこないのかもしれない。

いずれにしても、こうした問題があるということを働きかけていくことは必要であり、行政は、市民が生活していく上で、必要最低限のことを保証することが第一義的な役割ですから、行政としても取り組んでいかなければならない課題です。しかしながら、行政ができていないこと、できていないこと、そして、行政が単独でやるのが難しいことがあるので、役割を確認しながら、連携を模索していただきたいと思います。協働とはそうしたものですから、それぞれの現状を確認し合って、できることを持ち寄れる団体の一つで

も多く見つけて、それを結び付けていく。そうした役割分担も今後必要になってくると思います。時間はかかると思いますが、そうした体制がないと、もれ落ちてしまう人たちは残り続けてしまいます。展望はいろいろあると思いますが、具体的に何から始めるか計画を立てると、これからの一つ一つの積み重ねが形になっていくと思いますので、是非頑張ってくださいと思います。

以上で、「Cocoro salon Aun」様の報告を終わりにしたいと思います。

(会長)

それでは最後に、「高根台フラワーガーデン」様、成果報告をお願いいたします。

－「高根台フラワーガーデン」成果報告－

(会長)

それでは、委員の講評をお願いします。

(委員)

今回4回目となり、補助金は最後となりますが、活動を続け8年目を迎えられ、本当に素晴らしいと思うことは、美化活動がこの事業の目的ではなく、地域のつながりや、防犯といった地域コミュニティづくりにつながっていることです。今年は障がい者の方々とも交流を深められ、地域の方々の障がい者の方々や施設に対する理解が深まったのではないかと思います。また、障がい者の方々にとっても、一緒に活動できるということは、よい経験になったのではないかなと思います。

一番心配したのは、資金面で、どうしてもこの事業には花苗代や肥料代などがかかるわけですが、近隣町会が関わり、援助が受けられたということで、是非とも今後もよりよい地域づくりという視点で頑張ってくださいと思います。

(委員)

大変な活動だなと実感しております。地域の方々を巻き込んで活動されており、名簿を見ると高齢者の方が多く、頭が下がります。

資金面では、花壇に募金箱のようなものを設置して、10円でも20円でも寄付を募ってもよいと感じています。

8年続けられるというのは、並大抵の努力ではなかったと思いますが、これからも地域を巻き込んで、頑張ってくださいと思います。

(高根台フラワーガーデン)

毎年 1,000 株ほどの苗を植えますが、半分を種から手作りしております。資金的に厳しい部分もありますが、今後も活動を継続させ、花を絶やさないように頑張っております。

また、この活動に携わることで、町会活動に参加するようになった方もいましたので、これからも地域に貢献できる活動をしてまいります。

(委員)

活動を続けられたことで、町会が協力するようになったことは、素晴らしいと感じています。また、近隣の施設も一緒に活動されるようになったことも、とても素晴らしいことと感じております。同時に、今後も続けたいという言葉聞いて、安心いたしました。

質問ですが、これは県の土地ということで、県との関係はどのようになっているのでしょうか。

(高根台フラワーガーデン)

当初、この土地には、植え込みがありましたが、手入れをしていない状態で見通しが悪く、危険でしたので、除去してほしいという要望を町会から県に行った際に、有志で花を植え整備するので除去してもらいたいという内容であったため、花壇の継続ができない場合には、県に土地を返す約束になっています。

返すのは簡単ですが、これまで花時計を設置し、今では花壇作業を楽しみにしている方もいらっしゃいます。また、市原市の広報紙で紹介をしていただいたりしていますので、県の協力は得られませんが、これからも継続していきたいと考えております。

(委員)

これは、出来るかどうかわかりませんが、私が花壇の横を車で通り過ぎたときに、周りの花が咲いていると、花時計が水平のために見えなかったことがありました。もっと見えるようにするとよいと思います。

(高根台フラワーガーデン)

最初は斜めで、道路から見えるように設置していましたが、壊れて作り直したときに、斜めだと破損しやすいということで、水平にしました。見えづらいという御指摘を、ほかの方からもいただいていますので、次回作り直すときには、配慮したいと思います。

(委員)

活動を続けられたことで、町会の理解を得られるようになったことは、本当に素晴らしいと思います。このような活動は、地域愛を育てる根幹の活動だと思います。子どもにとって、ここが育たないと、自立は難しいと思いますので、絶対に必要な活動だと感じています。長い時間がかかるかもしれませんが、このような環境で育った子は、将来ここで生

活していきたいという気持ちが芽生えてくると思います。これからも是非頑張ってください。

(高根台フラワーガーデン)

当初は、資金も人手も、一切町会は関わらないと言われていましたが、今は、こうした活動こそ町会として支援しなければいけないと評価していただけるようになりました。

作業をした子ども達も、登下校のたびに楽しみと言ってくれており、うれしく思っています。

(会長)

続けてきたからこそ、人の気持ちが変わってきた部分もあると思いますし、理解され、自分も参加してみようと、裾野が広がってきた部分もあると思います。まさに続けることが力になったのだなと実感いたしました。

これだけの活動をされているわけですから、今後どのように支えていくのか考えなければいけません。支え方はいろいろあると思いますが、例えば、花壇作業を通じて支えたいという方、直接作業に参加はできないが、寄付だったらできるという方、潜在的にかなりいらっしやると思います。現在でも、近隣施設との連携や、ゴルフ場との交流を深め働きかけていくというお話でしたが、その裾野を更にどのように広げていけるのか。周囲の方からすると、自分なりの関わりができるということがすごく大事なことで、こうしなければいけないと、縛りをかけているわけではないと思いますので、この活動へは、いろいろな関わり方があるということをお願いしたいと思っています。そうした一つ一つの中から、広がりが見られると思いますので、活動を続けてきたからこそ、もっと門戸を開いて、入口を広げて、継続していただければと思います。

以上で、「高根台フラワーガーデン」様の報告を終わりにしたいと思います。

(会長)

それでは、以上で、今年度採択された4団体の報告が終了いたしました。

最後に、会長として、私から一言、述べさせていただきます。

それぞれの団体については、委員から御指摘やアドバイスがありましたとおり、いずれの団体も素晴らしい活動をされておられますので、今後も続けていただきたいと思います。続けるということは、言葉では簡単ですが、それは大変なことで、人の問題、金の問題、具体的な活動内容の問題、様々な課題を抱えているとは思いますが。

そこで、活動を続けていくために、大事なことは、皆さんの活動を、地域の方々にしっかりと見せていく、伝えていく、可視化していくことが、何より大事なことです。活動するということはもちろんですが、その手前部分、今、何が地域の課題となっているかを伝

え、問題意識、課題意識を幅広く共有できるようにならなければ、何かをやろうとしても、動きが出てきません。この課題があって解決が望まれているという、現実の問題を多くの方に伝え、理解しましょう、知りましょう、と裾野を広げていくことが重要になっていきます。それを踏まえた上で、こうした活動をしている、こうした努力をしている、こうした形で貢献している、解決に向けた動きをしている、ということを見せていくことが、地域から信頼を得ることにつながっていきます。信頼関係抜きに、活動は続かないと思いますので、どのように信頼を得ていけるか。そのためには、活動を見せていき、具体的に出来ることを伝えていくことが、活動を続けていく大事な部分だと思います。

また、この伝え方も、現在は多様化しています。言葉を通じて直接伝えることもあれば、インターネットにより、これまでにはなかった情報の伝達や共有が物理的に可能になってきています。どのように使うかという、細かい部分ではありますが、幅広く情報を伝え、共有するツールはたくさんありますので、自分たちなりの方法を見つけ、直接伝えると同時に、不特定多数の方々にも伝えてください。そうしたことを織り交ぜ、立体的に組み合わせ、活動内容を伝えていくことが何よりも問われてきます。

そして、その広がりの中で、是非、自分たちの活動に自信を持ち、伝え、協力を求めてください。どうしても自分たちの活動を控えめに捉えがちな傾向がありますが、むしろ活動内容や成果、展望を積極的に伝えてください。こうした活動をするためには、こうした人たちの協力が必要だ、お金が必要だ、ということ具体的に伝えないと、協力は得られません。伝わってこないのも、参加する機会を逸していた、寄付する機会を逸していた、という話をよく聞きますので、どんどん働きかけてください。いろいろな壁があると思いますが、10人働きかけて、1人でも応えてくれる方がいれば、大きいことです。自信を持って働きかけ、訴えかけていくことを重ねていくことが、活動を広げていくことにつながると思いますので、これからの活動を頑張ってください、活性化させていただければと思います。

(会長)

それでは、以上をもちまして本日の議事を終了いたします。
進行を事務局にお返しします。

(司会)

長時間に渡り、皆様お疲れ様でした。

以上をもちまして、平成27年度第5回市原市市民活動・協働推進委員会を終了いたします。